

- For more records, click the Records link at page end.
- To change the format of selected records, select format and click Display Selected.
- To print/save clean copies of selected records from browser click Print/Save Selected.
- To have records sent as hardcopy or via email, click Send Results.

<input checked="" type="checkbox"/> Select All	<input type="checkbox"/> Clear Selections	Print/Save Selected	Send Results	Display Selected	Format Free
--	---	---------------------	--------------	------------------	----------------

1. ☐ 5/5/1 DIALOG(R)File 352:Derwent WPI (c) 2003 Thomson Derwent. All rts. reserv.

000909856

WPI Acc No: 1972-70023T/197244

Polyoxin-type nucleosides - with antibiotic and
antimetabolite activity

Patent Assignee: SYNTEX CORP (SYNT)

Number of Countries: 005 Number of Patents: 005

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
DE 2208542	A					197244 B
FR 2144197	A					197316
US 3809689	A	19740507				197420
GB 1388962	A	19750403				197514
JP 47038974	A	19721205				198347

Priority Applications (No Type Date): US 71119019 A 19710325

Abstract (Basic): DE 2208542 A

Nucleosides of formulae (I) and (II) and their salts: (where R is CH₂OH or COOH; Z is OH or NH₂, and B is adenin-9-yl, 2-fluoroadenin-9-yl, 2-aza-adenin-9-yl, 6-methylaminopurin-9-yl, 6-dimethylaminopurin-9-yl, 7-deazaadenin-9-yl, 8-aza-adenin-9-yl, 8-aza-9-deazaadenin-9-yl, guanin-9-yl, 8-aza-guanin-9-yl, 7-deaza-guanin-9-yl, hypoxanthin-9-yl or a gp. of the formula: in which R₁ and R₁₁ are H, F, Cl, Br, I, 1-7C alkyl, CF₃, CH₂OH, NO₂, NHCH₃ or N(CH₃)₂ and Y is CH or N; R₁ and R₁₁ being H or CH₃ when Y is N, and R₁₁ being F, Cl, Br, I, 2-7C alkyl, CF₃, NO₂, NHCH₃ or N(CH₃)₂ when the conformation in the 51-posn. is -D-allo and R is COOH) are claimed. Also claimed is the prepn. of hexofuranosyluronamide nucleosides by treating a furanosyl nucleoside 51-aldehyde and/or its hydrate with cyanide and H₂O₂ in the presence of a base under reactive conditions so as to form a mixt. of the 51-beta-D-allo and 51-alpha-L-talo epimers.

Title Terms: POLYOXIN; TYPE: ANTIBIOTIC; ACTIVE

Derwent Class: B02

International Patent Class (Additional): A61K-031/50; C07D-051/52;

C07H-019/04

File Segment: CPI

Derwent WPI (Dialog® File 352): (c) 2003 Thomson Derwent. All rights reserved.

<input checked="" type="checkbox"/> Select All	<input type="checkbox"/> Clear Selections	Print/Save Selected	Send Results	Display Selected	Format Free
--	---	---------------------	--------------	------------------	----------------

© 2003 The Dialog Corporation

昭47-38974

⑩ 特許公報

④ 公告 昭和47年(1972)10月2日

発明の数 1

(全4頁)

1

⑥ 染毛剤

② 特 願 昭 39-27859
② 出 願 昭 39(1964)5月19日
審 判 昭 41-6924
⑦ 発 明 者 吉沼良宣
東京都新宿区東大久保2の53
⑦ 出 願 人 曾田香料株式会社
東京都中央区日本橋本町4の14
代 理 人 弁理士 猪股清 外2名

発明の詳細な説明

本発明は染毛剤主剤としてアミン系酸化染料を油界面活性剤および水の存在のもとに無色乃至有色に透明もしくは殆んど透明に近似する性状に比較的粘度の低い可溶化ゲル状とした可溶化ゲル状染毛剤主剤を第1剤とし従来染毛剤の酸化剤として使用されている過酸化水素水を非イオン界面活性剤、油、水の存在のもとに比較的粘性の低い可溶化ゲル状とした過酸化水素を第2剤としてなる染毛剤である。

水に難溶の過酸化水素水の安定剤(例えばフェナセチン、アセトアニリド)を非イオン界面活性剤を使用し、過酸化水素水を透明もしくは透明に近似する性状に可溶化または分散し、多量に配合できるようにし、また有機酸または無機酸を用いて、pH値を2.5-5.5とし、これにより従来一般に酸化剤として使用されている過酸化水素水を遙かに凌駕する安定性を賦与し、長期保存に耐え得るようにした過酸化水素(第2剤)により染毛剤主剤(第1剤)の酸化を促進すると共に染毛剤の操作の簡易化を図り、品質の安定した染毛剤を得、求むる色調の染毛効果を所期するものである。

即ち本発明の目的とするところは従来公知の染毛剤主剤(第1剤)は粉末剤型、液剤型、クリーム剤型、シャンプー剤型などであり酸化剤(第2剤)として過酸化水素水、過硼酸ナトリウムなど

が使用され、これらによる染毛操作の場合染毛剤主剤(第1剤)および酸化剤(第2剤)を容器に計量混合、攪拌し均一にし毛髪に塗髪するが地肌に付着し、これが中毒症状発生の要因をなしました
5 染毛前に洗髪することを必要とするものが大部分で洗髪時爪、アルカリなどにより地肌を損傷するため薬液が皮膚の損傷部分を刺激し副作用を倍加される致命的欠点がある。また染毛工程に於て洗髪→トリートメントオイルの塗布→主剤、酸化剤
10 の計量混合均一攪拌→汚損防止手袋肩掛布などの準備→薬液をブラシにて塗布→乾燥または染毛反応の待時間→染毛後の洗髪毛髪地肌を保護するためのリンスまたはヘヤークリームなどの塗髪或は整髪など幾多の煩雑な操作を経て染毛操作が行われ、この間2-3時間は空費される。また主剤と酸化剤を混合し均一に攪拌操作中反応を起し、そのためにむら染の懸念、毛髪の硬化損傷、皮脂の必要以上の脱脂作用染毛当事者以外の染毛施術者による染毛の必要等幾多の欠点が存している。

20 本発明は上記のような欠点に鑑み本発明の可溶化ゲル状染毛剤主剤(第1剤)および染毛剤の酸化剤としての可溶化ゲル状過酸化水素(第2剤)は配合する原料の比率により求め得る粘性を得ることができ粘性であるため地肌の付着率極めて微量であり、また界面活性剤および可溶化された油の存在により汚染即ち余分な皮脂塗髪されたヘヤー
25 クリーム、髪油、ボマードなどを乳化また可溶化するため染毛前に洗髪の必要なくこれにより洗髪時に生起し得る地肌の損傷副作用の懸念が全く解消される、さらに適当な油を用いればトリートメント効果も得られ、また可溶性、粘性は本発明の第1剤、第2剤と共に同一程度であるため、両者の反応は施術実施に適した速度で平均的に進行し、毛髪に塗布した場合染毛効果は均一的でム
35 ラ染は防止しされ完全に行われ従つて染毛施術時間を短縮して染毛工程を簡易にするものである。
また必要量の油成分を配合できるため毛髪に染

3

養を与え、界面活性剤の作用により、その浸透性を高め可溶性であるため洗剤を使用することなく水洗のみで洗髪でき他人の手を借りることなく染毛当事者一人のみで簡単に染毛施術を行うことが出来るなおまた染毛に必要とする分量だけを過不足なく使用し得られ薬液の過剰な消費を節約し品質が安定し、かつ外觀極めて優美な染毛状態が得られる染毛剤を提供するものである。

今本発明の第1剤の実施例を以下に記す。

第1剤の第1実施例

ポリオキシエチレンラウリルアルコールエーテル

18.0%

ポリエチレングリコール#1500 12.0%

先ず上記の量のポリオキシエチレンラウリルアルコールエーテル型の界面活性剤の裡水に透明もしくは殆んど透明に溶解または分散しかつ粘性を有する界面活性剤を選び、これにポリエチレングリコールを混合して加熱し溶解攪拌し60～70℃にて保温した混合物をAとし

水 57.3%

亜硫酸ナトリウム 0.8%

アミン系酸化染料(水溶性) ... 3.2%

{ 例 バラフェニレンジアミン ... 20% }

{ バラメチルアミノフェノール ... 1.2% }

フェノール誘導体 0.5%

(例 レゾルシン)

一方上記の量で水に先ず亜硫酸ナトリウムを加え加熱溶解し60～70℃にて保温しこれに水溶性のアミン系染料およびフェノール誘導体を加えて混合溶液Bを得る(この時亜硫酸ナトリウムを先ず溶解しこれに染料を入れると溶液の色は殆んど無色乃至着色度の希薄な製品に仕上り淡色となる)。

次に上記混合物Aに混合溶液Bを徐々に攪拌しながら加え45℃にて10%アンモニア水を5%加え均一となし40～45℃にて攪拌を止め得

4

たる製品を直とに容器に充填して密閉する。

第1剤の第2実施例

ポリオキシエチレンセチルアルコールエーテル...

25.0%

5 水溶性ヒマシ油 10.0%

先ず水に透明もしくは殆んど透明に溶解または分散しかつ粘性を有する上記の量のポリオキシエチレンセチルアルコールエーテルを選び、これと水溶性ヒマシ油を混合し、加熱溶解攪拌し60

10～70℃にて保温する混合物Aを得

水 58.4%

水酸化カリウム 0.1%

亜硫酸ナトリウム 0.5%

次に水に上記の量の水酸化カリウムと亜硫酸ナトリウムを混合し、加熱溶解60～70℃にて得た溶液B容量の約1/3量を上記混合液Aに徐々に攪拌しつつ加えて混合物Cを得

アミン系酸化染料(水に難溶性) 0.3%
(例 バラアミノジフェニールアミン)

上記混合物Cに上記の量の水に難溶性のアミン酸化染料を加え混合物Dを得

アミン系酸化染料(水溶性) 3.2%
(例 バラフェニレンジアミン)

30 フェノール誘導体 1.0%

(例 カテコール)

次に溶液Bの容量の約1/3に水溶性の上記の量のアミン系酸化染料とフェノール誘導体を溶解し、これを前記の混合物Dに攪拌しつつ混合し、45℃にて保温して混合物Eを得、上記混合物Eに28.0%アンモニア水を1.5%加え40～45℃にて攪拌を止めて得たる製品を容器に充填して密閉する。

第1剤の第3実施例

ポリオキシエチレンセチルアルコールエーテル...

26.5%

5	6
水溶性 ラノリン 4.5 %	上記操作方法の詳細は第2実施例と同様である。
ヒマシ油 2.0 %	次に第2剤の実施例は下記のとおりである。
流動パラフィン 1.5 %	第2剤の第1実施例
上記組成の混合物をAとする。	ポリオキシエチレンセチルアルコールエーテル.....
水 59.6 %	18.0 %
水酸化カリウム 0.1 %	ポリエチレングリコール No. 1500 10.0 %
亜硫酸ナトリウム 0.6 %	フェナセチン 1.0 %
ラウリルアルコール硫酸エステル塩... 0.5 %	10 先に水に透明もしくは殆んど透明に溶解または分散する種類のポリオキシエチレンアルコールエーテルとポリエチレングリコール No. 1500を上記の量で混合し、これを攪拌加熱溶解し80℃にてフェナセチンを少量ずつ添加し完全に溶解した混合物をAとし、次に
上記組成による混合物Bの混合溶液の1/3量を混合物Aに加えて混合物Cを得、	水 59.47 %
アミン系酸化染料(水に難溶性) ... 0.5 %	20 一方上記の量の水に磷酸を加え加熱し75℃にて保温した混合物Bを上記混合物Aに少量ずつ攪拌しながら加え、溶解または分散させ30℃にて得たる混合物Cに、30%濃厚過酸化水素水を10.0%加え常温にて攪拌を止め得たる製品を容器に充填する。
{ 例 バラアミノジフェニールアミン 0.3 % }	25 第2剤の第2実施例
{ バラアミノジアニリン 0.2 % }	ポリオキシエチレンセチルアルコールエーテル 26.5 %
混合物Cに上記アミン系酸化染料を加えた混合物をDとし、	加工水溶性ヒマシ油 10.0 %
アミン系酸化染料(水溶性) 2.2 %	30 アセトアニリド 1.0 %
{ 例 バラフェニレンジアニリン 1.7 % }	前記と同一の操作により得たる上記組成の混合物Aに、
{ バラメチルアミノフェノール 0.5 % }	35 水 49.07 %
フェノール誘導体 0.8 %	磷酸(10.0%溶液) 1.53 %
{ 例 ビロガロール 0.2 % }	上記組成の混合物Bを混合して得た混合物Cに、30%濃厚過酸化水素水15.0%を上記同様混合し常温にて攪拌を止め容器に充填する。
{ レゾルシン 0.6 % }	40 1 外 観
上記の組成の混合溶液と溶液Bの2/3量を混合しこれに上記混合物Dを混合した混合物をEとし、上記混合物Eに28%アンモニア水を1.5%混合して製品を得る。	無色または有色で透明もしくは透明に近似する外観を有する。
	(イ) 常温にて溶解しない製品

7

従来のポマードを透明もしくは殆んど透明に近似する性状にし、かつ染毛剤主剤としたもの

(ロ) 常温にて流動性を有する製品

従来のヘヤークリームを透明もしくは透明に近似する性状としかつ染毛剤主剤としたもの

2 溶解性

洗剤を使用することなく水洗のみで洗髪できる。また第2剤の実施例により得たる製品の性状は下記のとおりである。

1 外 観

無色透明もしくは殆んど透明に近似する外観を有する。

(イ) 常温にて溶解しない製品

従来のポマードを無色透明もしくは殆んど透明に近似する性状とした可溶化ゲル状過酸化水素

(ロ) 常温にて流動性を有する製品

従来のヘヤークリームを透明もしくは殆んど透明に近似する性状にした可溶化ゲル状過酸化水素

2 溶解性

洗剤を使用することなく水のみで洗髪できる。なお第2剤の過酸化水素の含有量は3.0%乃至4.5%でpH値を2.5~5.5としたものである。

本発明は上記の第1剤第2剤よりなる染毛剤でその使用方法是使用時両剤を均等に混合し塗髪し10~30分を経て洗髪すれば求むる色調の染毛効果が得られる。

これらの方法で染毛施術を行うと一操作にて染毛可能となり、かつ染毛施術者一人のみで他人の手を借りることなく染毛をなし得るのみならず、従来の染毛剤に見られる主剤酸化剤の混合攪拌の

8

準備中に溶液中に反応が起り、むら染の懸念あるも本発明の染毛剤による染毛にはその懸念全く解消せられ良好な結果が得られるのである。

なお本発明に於て

- 5 1 水と称するは精製水、蒸留水、純水を指し
- 2 油(蠟を含む)と称するは流動パラフィン精製脂肪酸エステル、ヒマシ油、ラノリン、ポリエチレングリコールおよびこれらの誘導体等を指し
- 10 3 界面活性剤と称するは酸性およびアルカリ性に於て変質しない非イオン界面活性剤(一般にはエーテル型活剤を使用した第1剤をアルカリ性によす場合には陰イオン活性剤(例えばラウリル硫酸トリエタノールアミン、ラウリル硫酸ナトリウム、セチル硫酸ナトリウムを使用することもある)何れの場合にも可溶化能力の大きいものおよび水に透明もしくは殆んど透明に溶解もしくは分散して粘性を有するものを選択使用する。

20 特許請求の範囲

- 1 アミン系酸化染料を界面活性剤、油および水の存在のもとに無色または有色の透明もしくは殆んど透明に可溶化ゲル状とした可溶化ゲル状染毛剤主剤を第1剤とし過酸化水素水を非イオン界面活性剤、油および水の存在のもとにpH 2.5~5.5で可溶化ゲル状とした可溶化ゲル状過酸化水素を第2剤としてなる染毛剤。

30 引用文献

- 特 公 昭 38-6297
特 公 昭 39-3150